

【グループ別対話会】印西市市民公益活動団体 Shake Hands

日時：令和7年5月27日（火）

1. 参加者の発言

生理用品の設置・運用について

- 私たちは「生理の貧困」というテーマから活動を始めました。性や月経は相談しづらく、特に子どもたちが安心して過ごせる環境づくりが必要だと考えています。
- トイレの個室に生理用品を設置することで、誰にも見られずに使える環境が整います。市のアンケートでも「トイレの個室で誰にも見られないで使うことができるというのが一番よかった」という声が出ています。
- 実際に市内の中学生から「いつも困っている」との声があり、生理用品を買えない子どもがいることがわかりました。
- 学校によって設置状況に差があり、尊厳を傷つけるような扱いも見受けられました。設置するボックスの吸盤式ポーチが落下して使えない、掃除用具が上に置かれているなどの事例があります。
- 公共施設では年間3万個以上の生理用品が使用されており、補充が追いつかない状況です。施設職員による補充支援を行ってくれているところもあり、ありがたいです。
- 父子家庭など、気づきにくい家庭環境では必要性に気づかれないことも多く、支援の仕組みが必要です。

性教育の拡充について

- 性教育は知識だけでなく、体験や生活に根ざした内容が重要です。男子も含めた授業で理解が深まりました。
- 生理用品の使い方や交換のタイミング、感染症予防など、実生活に即した知識が不足しています。
- 「初めての生理セット」の寄贈活動を通じて、親子の対話のきっかけを作っています。オーガニック製品やショーツタイプなど、親世代には無かった製品を紹介しています。
- 授業での体験を通じて、男子が「母親の大変さに気づいた」「手伝いたい」と言ってくれるようになりました。
- 授業内容が広範すぎると子どもが自分事として捉えづらいため、テーマごとに分けて複数回実施することが望ましいです。

啓発活動・今後の提案

- 男性への啓発も必要です。来年 3 月 8 日の国際女性デーに、生理痛を疑似体験できるイベントを企画しています。
- 公共施設閉館後の対応や、相談支援の仕組みも必要です。物の提供だけでなく、困っている状況から脱出するための支援が重要です。
- 地域通貨「まちのコイン」を活用し、市民活動の連携や参加促進を図りたいと考えています。

2. 市の発言（市長・指導課）

- いただいたテーマについては、まだ理解が及んでいない部分が多いので、引き続き勉強してまいります。
- 生理用品の公共施設や学校での配布については、学校や施設ごとに設置状況が異なること、設置方法の工夫等について、改めて校長会などを通して学校へ伝え、確認してまいります。
- 性教育は小学校 3 年生から段階的に実施しており、発達段階に応じた内容で実施しているところです。ご提案いただいた内容については、参考にさせていただきます。
- 地域通貨については、現在の市の体制、行政主導ではうまくいかないと思います。民間等他の主体による取り組みが良いと考えています。